

今日と未来を、つなぐ。



日本生命の情報開示戦略

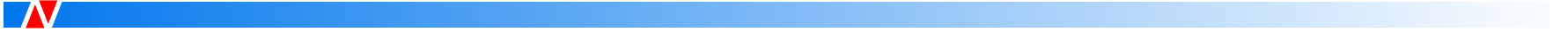
2023年11月

日本生命保険相互会社

- 内外におけるサステナビリティ開示強化の動きを背景に、情報開示に向けて苦勞されている企業様・ご担当者様は多いと拝察します。
- 当社でも、かねてより、積極的な情報開示に向けて舵を切る中、さまざまな面で苦勞をし、工夫を重ねながら取り組んでまいりました。
- 当社の取り組みのご紹介を通じ、**皆様の「実務的な一歩」を踏み出すためのヒント**になれば幸いです。

- 所属紹介（コーポレートプロモーション部）
- 相互会社としての日本生命と情報開示
- 日本生命グループのサステナビリティ経営
- 日本生命の情報開示戦略
- 今後の展望

所属紹介（コーポレートプロモーション部）



成り立ち

情報開示強化の潮流を背景に、2022年度に新設

ミッション

情報開示を通じた、経営の見える化・高度化への貢献

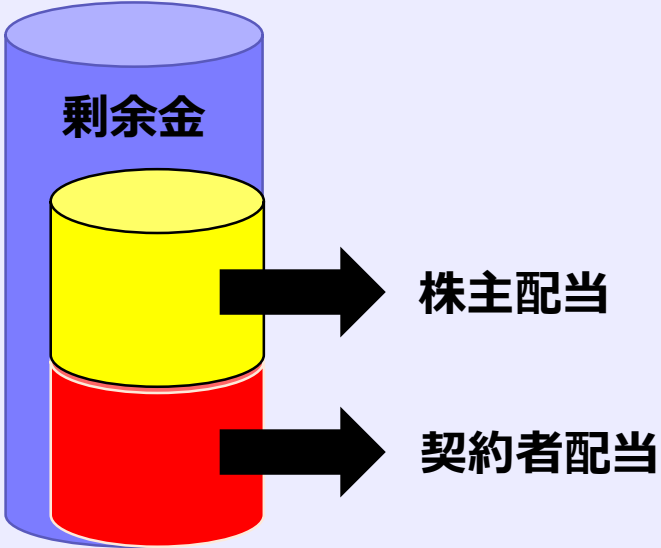
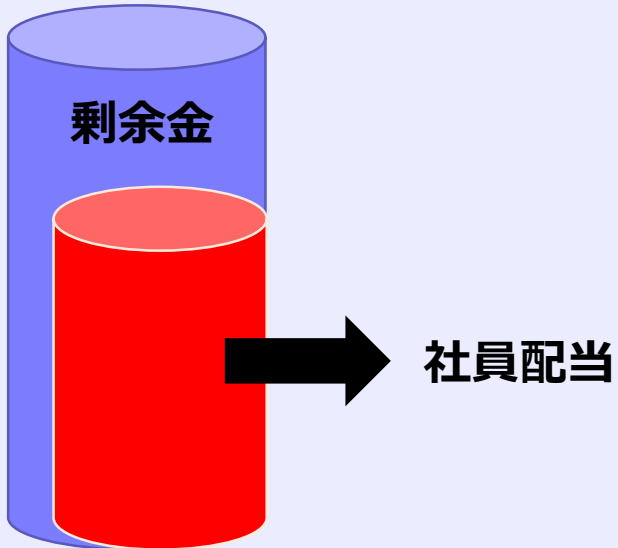
体制

計37名で構成される部署だが、情報開示については、
9名*（社内副業1名を含む）で実施
*情報開示と同時に、プロモーション（企業ブランディング）機能も担う

相互会社としての日本生命と情報開示



○構成員（会社の所有者）や配当等につき、違いがある。

	株式会社	相互会社
根拠法	会社法	保険業法
構成員	株主	社員 (有配当保険のご契約者)
意思決定機関	株主総会	社員総会（総代会）
配当イメージ ※		

※配当の仕組みの説明であり、金額の多寡や、会社形態の有利不利を説明したものではありません。

○経営方針との関係、長期的かつ安定的な経営の観点から、相互会社を堅持。

経営方針 との関係

「ご契約者の利益を優先し最大化する」という経営方針に、相互会社の剰余金分配の仕組みが一致するため

－株式会社における株主配当を考慮する必要がなく、剰余金の大半を有配当保険のご契約者への配当とすることができる

長期的かつ 安定的な経営

長期的に安定的な経営を行うには、相互会社形態が適しているため

－生命保険会社は、ご契約者に対し、確実に保険金・給付金等をお支払いするために、長期にわたり財務の健全性を維持し、また、安定的な剰余をあげる責任がある

○当社の株主は存在しないが、ご契約者をはじめとした、さまざまなステークホルダーが存在。

ご契約者

地域社会・地球環境

(当社に対する)
投資家である
劣後債債権者

投融資先

ビジネスパートナー
(取引先・提携先)

従業員

労働市場

行政・自治体

NPO・業界団体等

○上場会社ではないため、「金融商品取引法」や「コーポレートガバナンス・コード」等の適用は受けませんが、以下の理由から、上場会社並みの情報開示を目指している。

社会的影響

長期にわたる保障責任を負う生命保険事業の社会的影響の大きさ

機関投資家

機関投資家の立場として、対話を通じ、投融資先に、情報開示や脱炭素の取り組みをお願い・サポートする立場でもあること

経営の高度化

情報開示という手段を通じ、他社との比較、社内外からのフィードバックを受けることで、経営の高度化に貢献

ブランド



ブランドイメージ向上、従業員のモチベーション・エンゲージメント向上

日本生命グループのサステナビリティ経営



○日本生命グループは、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に貢献していく。

日本生命グループは、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティの向上に貢献します

人	地域社会	地球環境
<ul style="list-style-type: none"> ① 人生100年にわたる安心・安全の提供 ② 希望に満ちた未来世代を育む ③ 多様性と人権の尊重  <p>商品・サービスの提供を通じて、お客様の安心・安全をお守りしています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ④ 活力あふれる地域社会の創出  <p>がん検診受診勧奨活動を通じ、地域の健康増進への貢献を目指しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 豊かな地球を未来につなぐ  <p>E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)の課題を考慮するESG投融資を行っています。</p> <p><small>(提供:北陸電力株式会社)</small></p>



日本生命の情報開示戦略



- 情報開示の目的は、経営の見える化・高度化。
- PDCAサイクルに当てはめ、「①情報発信」「②ステークホルダーの理解浸透」「③フィードバック」「④経営の高度化」の好循環サイクルを構築する必要。

P 情報発信

統合報告書等の開示媒体制作、日経SDGs経営調査回答等を通じた、**経営の見える化とその発信**

D ステークホルダーの理解浸透

発信した情報を、**ステークホルダーに届け、真にご理解いただく**
－同時に**従業員にも発信**

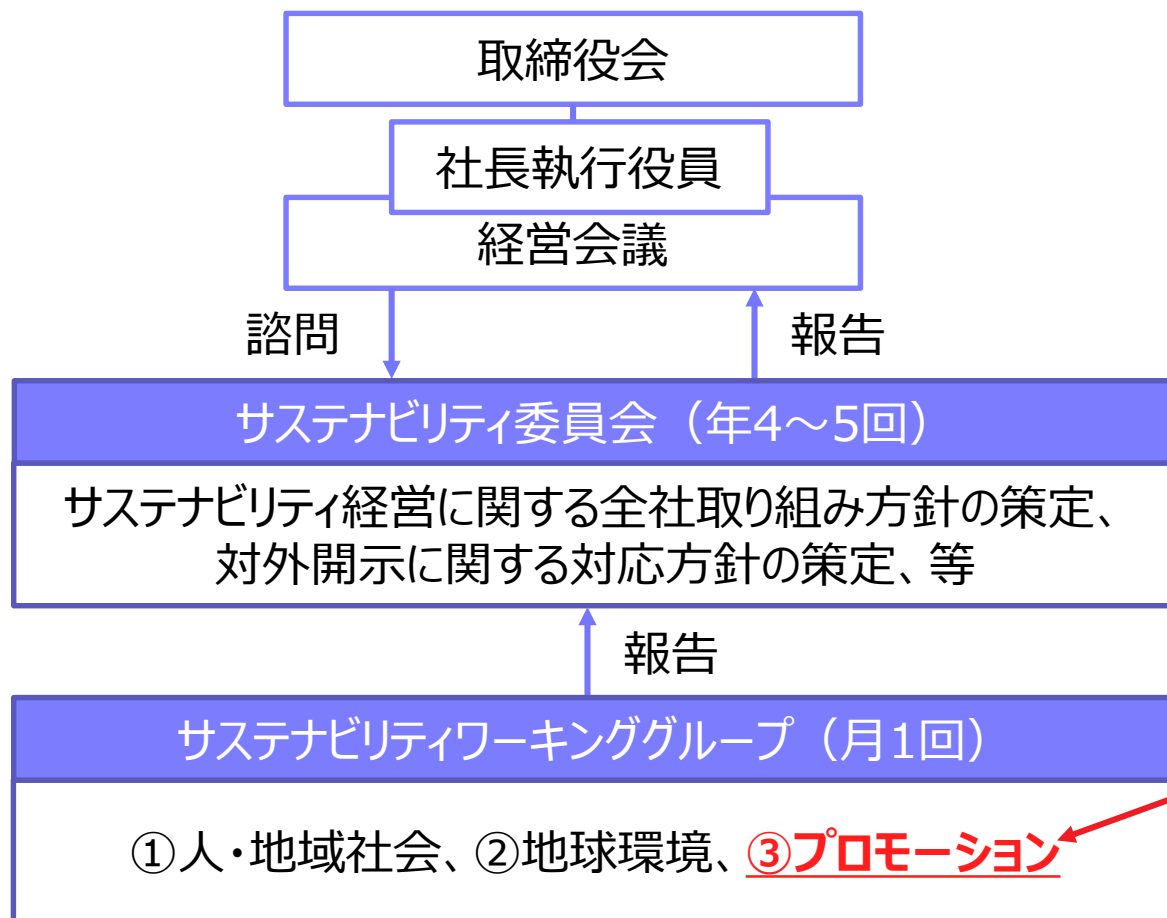
C フィードバック

ステークホルダー等からご意見をいただく
－日経統合報告書アワード、日経SDGs経営調査レポート含む

A 経営の高度化

経営への提言と高度化
－情報開示を通じて得た気づきを、経営会議の諮問機関であるサステナビリティ委員会・プロモーションWG（次頁参照）にて報告・共有

- 統合報告書等の制作方針、日経SDGs経営調査をはじめとしたランキングへの回答等、**対外開示に関する対応につき、関係部署間で議論するためのガバナンスを構築。**
 - サステナビリティ委員会の下部組織として、「**プロモーションWG (ワーキンググループ)**」を発足



プロモーションWG

<主な審議・検討テーマ>

- ① 対外開示に関する対応方針の検討
- ② プロモーション (企業ブランディング) に係る対応方針の検討

<メンバー>
関係部署の部長

- 日経SDGs経営調査をはじめとしたランキングへの回答を通じ、**サステナビリティ取組の状況を見える化する**するとともに、**未実施事項につき今後の方針を検討**。

ランキングの捉え方

- ・情報開示レベルの客観的指標
- ・サステナビリティ取組状況の見える化・他社比較の手段
- ・主要な新聞や雑誌に掲載されるため、企業の評判に影響




課題がある取組事項は、以下の観点から検討

- 他社の好取組事例の分析
- 世間の取り組みを参考に、改善に向けた取り組み・ステップを検討

- 情報開示に対する従業員の参画感を醸成する観点から、2万件の従業員向けアンケート結果を基に、表紙を作成・決定。



- ✓ 「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に重点を置いた、サステナビリティ経営を、3つのカラーとデザインでイメージ化

領域	サステナビリティ重要課題
人	① 人生100年にわたる安心・安全の提供 ② 希望に満ちた未来世代を育む ③ 多様性と人権の尊重 
地域社会	④ 活力あふれる地域社会の創出 
地球環境	⑤ 豊かな地球を未来につなぐ 
上記を支える 経営基盤	コンプライアンス、リスク管理、 コーポレートガバナンス、人的資本

- ✓ 他の社内外刊行物や掲示物にも、当デザインを活用し、統一的なコミュニケーションを展開

○ステークホルダーの理解浸透に繋がる効果的な情報発信となるよう、情報の受け手の立場に立ったわかりやすい情報発信を目指している。

開示媒体制作 上の留意点

統合報告書をはじめとした開示媒体を制作するにあたり、以下2点を意識。

- ① 納得性ある社内合意形成と必要十分な開示項目
- ② ストーリー性

① 納得性ある社内合意形成と 必要十分な開示項目

- ✓ プロモーションWGを中心とした、丁寧な議論と合意形成
- ✓ 必要十分な情報開示項目
－コーポレートガバナンス・コード等の開示基準

② ストーリー性

- ✓ 教科書的な事実の羅列だけでなく、その背景・考え方
- ✓ 成果だけでなく、課題認識やその対応策
- ✓ 体制・運営だけでなく、具体的な取り組み

○ 読み手のニーズに応じた効果的な情報発信を実施すべく、今後も工夫を重ねていく。

多様な
情報発信

統合報告書ダイジェストを制作し、手軽に当社を知っていただけるための機会も創出。

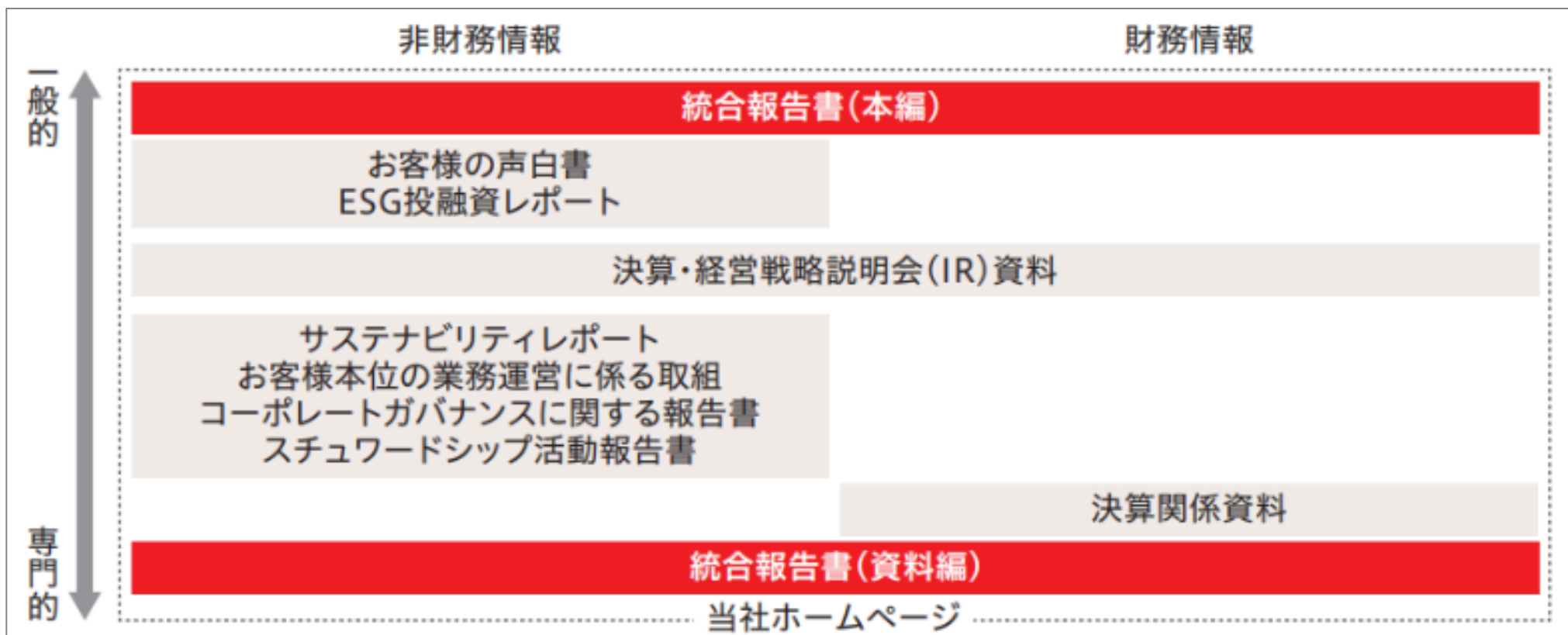
－ 従業員向けに解説動画を提供



随時更新性

昨今、AIを活用した自動検索・分析を実施するユーザーも増えているため、オフィシャルホームページにて、網羅的かつ随時更新された情報発信を目指していく。

○情報開示媒体の位置づけを整理し、社内外から必要な情報にアクセスできるよう工夫。



○「統合報告書2023」は、保険毎日新聞で取り上げられた。

2023.8.29 保険毎日新聞 2面

け、生命保険を主軸とした事業活動を通じ、顧客をはじめとしたステークホルダーに価値を提供していくことを表現した。「創業来のサステナビリティ」(本編4・5頁)では、創業以来、顧客や地域に安心・安全を届け、サステナビリティとも通ずる経営を行ってきたことを具体的な取り組みとともに記載し、重要課題との関係を示した。「トップメッセージ」(6頁)では、サステナビリティ経営を軸に、トップとしての思いや課題認識を中心に記載、「企画担当役員メッセージ」(12頁)では、サステナビリティ経営の具体取り組みを記載した。「サステナビリティ経営」(本編24・39頁)では、今般行ったサステナビリティ重要課題の再整理や、「地域社会や人々とのつながり」「環境問題」に関する取り組み等、同社サステナビリティ経営に関する内容を充実させ、それぞれ記載内容の充実を図った。

情報開示の充実では、「トップリスク」(42頁)を新規開示したほか、「人的資本」(82頁)で、人的投資額、エンゲージメントスコア、男女別賃金格差(資料編で開示)など内閣府令に基づき開示を強化。「ガバナンス」(104頁、110頁)では、会議体の実効性評価、社内取締役のスキルマトリクスを新規開示し、内閣府令に基づき開示の強化を図った。

同報告書は、同社ホームページ(<https://www.nissay.co.jp/kaisha/annai/gyoseki/disclosure.html>)で見ることができ。



「日本生命 統合報告書 2023」を発行したと発表した。同社は、中期経営計画「Going Beyond」を超えて、加え、サステナビリティレポートやESG投資レポートなどのさまざまな媒体を通じて、顧客をはじめとした人・地域社会・地球環境

「日本生命」は7月28日、「お客さまの業務運営」と「サステナビリティ経営」を事業運営の根幹に据えている。同報告書に

同報告書の制作に当たっては、昨年10月から約6カ月かけて作成、役員100人以上が関与したという。表紙デザインは、サステナビリティ重要課題の三つの領域(人・地域社会・地球環境)を起点とした

境)をイラストで表現しており、約2万件の営業職員を含む職員アンケートを活用し決定した。報告書は「本編」「資料編」で構成され、本年度の統合報告書では、サステナビリティを軸に再構成するとともに、記載内容を充実させた。

サステナビリティ経営にかかわる記載の充実では、「日本生命の価値創造ストーリー」(本編2・3頁)では、サステナビリティ重要課題の三つの領域(人・地域社会・地球環境)を起点とした構成とし、その実現に向

日本生命 サステナビリティ軸に再構成、内容充実化 「統合報告書2023」を発行

「日本生命」は7月28日、「お客さまの業務運営」と「サステナビリティ経営」を事業運営の根幹に据えている。同報告書に

同報告書の制作に当たっては、昨年10月から約6カ月かけて作成、役員100人以上が関与したという。表紙デザインは、サステナビリティ重要課題の三つの領域(人・地域社会・地球環境)を起点とした

境)をイラストで表現しており、約2万件の営業職員を含む職員アンケートを活用し決定した。報告書は「本編」「資料編」で構成され、本年度の統合報告書では、サステナビリティを軸に再構成するとともに、記載内容を充実させた。

サステナビリティ経営にかかわる記載の充実では、「日本生命の価値創造ストーリー」(本編2・3頁)では、サステナビリティ重要課題の三つの領域(人・地域社会・地球環境)を起点とした

- 以下の方々からの意見を参考に、将来の改善に繋げていく。
- 今後とも、社内外のステークホルダーからのフィードバックを得られる機会をより増やしていきたい。

項目	内容
社内外のステークホルダー	ご契約者 従業員アンケート
有識者・専門家	サステナビリティ経営の専門家 - 日経ESG経営フォーラム講師等 統合報告書・情報開示コンサルタント
日経統合報告書アワード	評価レポート

○情報開示の目的をはじめとした社内理解促進のため、下記取り組みを実施。

コミュニケーション

①情報開示の必要性・目的、②情報開示スタンスについて、プロモーションWG（執行役員・部長層）だけでなく、管理職や実務クラス層も含め、**複層的なレイヤーにて丁寧なコミュニケーション**を実施。

情報開示の是非
にかかる
意思決定

情報開示には、想定外の影響や説明責任が伴うことから、**担当部署だけで判断せず（担当部署だけのリスクにしない）、プロモーションWGにて幅広い関係部署間で議論**し、そのメリット・デメリットを含めて情報開示の是非を判断。

目指すべき
旗印の設定

常に、**数年先を見据えた目指すべき“旗印”**を設定。

今後の展望



事業活動に伴い発生する、財務諸表には反映されない「外部不経済」の見える化
(事業活動を行ううえでの最低限の責任)

既存の会計の仕組みでは適切に補足できない「非財務情報」も、将来の企業価値創造の源泉

○情報開示の高度化に向け、以下の点を意識し、さらなる高みを目指したい。

企業価値向上

社内外のコミュニケーションを最適化し、経営の見える化・高度化に貢献することで、企業価値の向上に繋げる。

認知・好意形成

情報開示が、ステークホルダーの皆様に日本生命グループをご理解いただき、親しみを持っていただく機会になることを目指す。

- お忙しい中、最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。
- 本日、一つでも、皆さまの「実務的な一歩」を踏み出すためのヒントになりましたでしょうか。何か印象に残った点が一つでもあれば幸いです。
- 今後も、皆さまのご意見を賜りながら、努力していきたいと思えます。ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

今日と未来を、つなぐ。



NISSAY

日本生命